会　議　録

会議名称	令和５年度　第１回加古川市立学校校区審議会
開催日時	令和５年 11 月 16 日（木）　午後１時 30 分から午後２時 41 分まで
開催場所	加古川市役所南館　３階　301 会議室
出席委員	進藤　香代委員、山本　照久委員、吉田　真吾委員、日浦　明彦委員、 宮城　愛委員、立本　千寿子委員
傍聴人	１名
会議次第	１　開会 ２　委嘱状の交付 ３　教育長あいさつ ４　委員紹介 ５　会長及び副会長の選出について ６　議事 （１）規定及び令和５年度加古川市立小・中学校の就学状況 ①加古川市立小学校及び中学校校区規則について ②就学すべき学校の変更（校区外・区域外就学）について ③児童生徒数及び学級数について （２）両荘みらい学園開校にかかる校区の変更について ７　その他 ８　閉会
配付資料	冊子「令和５年度第１回加古川市立学校校区審議会」

審議内容（発言者、発言内容、審議経過等）	
１　開会	
２　委嘱状の交付	
３　教育長あいさつ	小南教育長あいさつ
４　委員紹介	・各委員紹介 ・事務局職員自己紹介 ・司会より会議の成立報告

５　会長及び副会長の選出について	・司会より事務局案（会長に日浦委員、副会長に吉田委員）を提案。 ・委員より異議なしとの声を得て、会長に日浦委員、副会長に吉田委員を選出。
（会長）	日浦会長あいさつ
６　議事 （事務局）	**（１） 規定及び令和５年度加古川市立小・中学校の就学状況** **①加古川市立小学校及び中学校校区規則について** 「加古川市立小学校及び中学校校区規則」及び「加古川市立小学校・中学校の校区を定める要綱」に基づき、小学校及び中学校の校区割について説明・報告。
（委員）	・質疑なし
（会長）	なぜ国包が分かれているのかという部分について疑問を持っていたが、社会で地理を勉強していると、昔は大雨のたびに加古川の流路が氾濫し流れが変わるため、国包の今の範囲の西側に加古川が流れていた、ということも聞いたことがある。現在は、国包の間に加古川が流れているため、西側だけが上荘小校区となる、ということがわかった。
（事務局）	**②就学すべき学校の変更（校区外・区域外就学）について** 「就学すべき学校の変更に関する要綱」に基づき、校区外・区域外就学を許可する基準及び申請・許可状況について説明・報告。 　あわせて、平岡町高畑地区の小学校区に関する要望についての経過を報告。
（委員）	・質疑なし
（事務局）	**③児童生徒数及び学級数について** 令和５年５月１日現在の児童生徒・学級数及び令和 11 年度までの児童生徒・学級数の推計について説明。
（委員）	小さいお子さんのお母さんとお話しすることも多い。教育委員会の方々も頑張っていただいているのはよくわかっているが、お子さんをお持ちのお母さんに話を聞くと、隣の明石では生まれたときからオムツが支給されたり、保育園・こども園の入園がしやすかったり等、子育てがしやすい街づくりがされていると思う。そうなると、隣の加古川は少し厳しくなってくるのではないか。どうしても育児のしやすい

	ところに人が移っていくということは、仕方のないところであると思う。変えていくということは大変難しいとは思うが、その中でも何か加古川らしい、こういったことに取り組んでいるというようなことが出来ていると良いのではないかと思う。子育てがしやすい街づくりというのは本当に大事なことであり、高齢者がどんどん増えていく中で、それを支える若い世代が増える方が、街としても活性化していくのではないかと思う。
（事務局）	子育てのことに関して、岡田市長もマスコミ等で発言しているところであるが、市民の方よりご意見をいただくことや、明石市と比較されることはよくある。 明石市はＰＲの仕方が非常に上手であり、みなさんが明石市の取り組みをよく認知しておられる要因のひとつであると思う。明石市が、オムツの支給に関する施策であるとか、保育園やこども園に関して充実されていることは確かだと思う。 加古川市においても保育園やこども園については、こども部が懸命に取り組んでいるところである。オムツ支給の件などもあるが、その施策を行うにあたっては、やはり財源についての議論が必要となってくる。限られた財源の中で、どのような施策を行い、どのように予算を分配していくのか、ということは市の姿勢としてあるが、このことについては、将来ひずみが出ないよう考えていくこともあわせて行っていかなければならない。
（委員）	加古川市においても幼稚園の年少クラスが実現し、始まったことは本当にうれしく思う。やまて幼稚園なども人数が少ないながらも環境がとてもよく、市内の他の地域からも通っている状況である。ただ、年中や年長になると、自分のところのエリアに帰っていかないといけないなどの事情もあり、その点については本当につらいことだと思う。 どの園についても小学校や中学校と同様に、同じような環境で過ごすことが出来ればよいと思うが、地域性の違いなどもあるため、それぞれの良さというものがもっと出ていくと、親としても安心して通わせてあげられると思う。
（事務局）	学校によって子どもの数に違いがあり、やれること、やっていくことに違いはあると思う。進藤委員が校長をしておられる平荘小学校は、子どもの数が減ってきているものの、工夫をして地域独自の取り組みをされている。また、山本委員が校長をしておられる加古川中学校もICTに特に力を入れられる等、それぞれ地域に応じた教育が増えてき

	ている。 **（２）両荘みらい学園開校にかかる校区の変更について**
（事務局）	両荘みらい学園開校に伴う校区の変更と両荘みらい学園の概要について説明。
（委員）	加古川市にこのような斬新で新しい、みらい学園という名前にふさわしい取り組みがあるということを知り、とても好奇心が沸いている。このような企画、両荘みらい学園の創立を目指された最も大きな目的と意義についてお尋ねしたい。
（事務局）	もともとこの議論のきっかけは平成 29 年である。北部地域において、子どもの数が減ってきている中で、今後、子どもの教育環境をどうするのかという話があった。当時、両荘地区において、オープンミーティングを開催し、地域の方のご意見などをお聞きしながら、子どもたちにとって一番いい教育の在り方とはどういうものなのか、ということを議論してきた。学校規模の適正化という議論もある中で、ひとつの選択肢としてこの小中一貫校もお示しさせていただいた。地域の方に全戸アンケートをとった中で、地域の方からのお声として過半数以上の方が、小中一貫校に向けて進めていただきたいという声をいただき、教育委員会としてもその方向へ動き出したというのが始まりである。そこから開校準備委員会を設置し、地域の代表、保護者の代表や学校の先生方にも委員会に入っていただき、たくさんの議論の中から、どういった形のものを作り上げていくのかということについて、ひとつひとつご意見をいただきながら、ここまで辿りついたところである。 特色として、義務教育学校というのは、単なる小中一貫校ではなく、９年間を見通したカリキュラムが組めるところである。両荘みらい学園においては、４－３－２という区分けとなっており、１年から４年までをファーストステージ、５年から７年までをセカンドステージ、８年生・９年生をサードステージとしている。３つのステージをひとつひとつの区切りでステップアップし、９年間を通して児童生徒を育てていく、というカリキュラムとなっている。
（委員）	保幼小連携と文科省も言っているように、数年前から保幼と小は取り組みがされてきていると思うが、小中というのは斬新な取り組みであると思う。グローバルな人材の育成とふるさとみらい科という、一見相反するものがセットになっており、それがきっと加古川市の強みと

	なり、全国的にも斬新な取り組みなのではないかと思う。 カリキュラムについても、ファースト、セカンド、サードということで、４年－３年－２年という子どもの発達の状況を、子どもの育ちに照らしつつ、グローバルでふるさと愛を育むようなところを軸として組まれており、今後どのように子どもたちが育ち、加古川に根付いたり、また海外にも出ていけるような人材が育っていくのかというところが楽しみである。
7　その他	
（会長）	全体を通して、何かご意見等はあるか。
（委員）	平荘小は小規模校であるが、小規模校の強みと弱みがある中で、今度は、平荘小の強みを上荘小の強みとを合わせ、小中が強力に連携した両荘みらい学園へ向けて、取り組みを進めている。子どもたちが育っていく環境の中で、地域の力というのはとても大きく、地域の方々は校区の子どもたちを自分の子どものように「宝物」という言葉で、子どもたちに伝えてくださる。少子化によって限られた活動が、今度は新たなステージとなって、さらに教育活動が広がっていくということに、子どもたちもワクワクしながら、両荘みらい学園へと進むことに向けて、準備をしているところである。 一方で、学校を閉じるということでもあり、地域の方々が今まで愛着を持って、学校をひとつの地域のシンボルとして、過ごしてこられたその想いも大切にしていきたい。また、平荘小も上荘小も今まで積み重ねてきた 130 年・120 年という歴史を次に活かしながら、子どもたちの学びがより良いものになるようしていきたいという想いとともに、その第１号となるのがこの両荘地区であると感じているところである。
（委員）	両荘みらい学園の話があったが、ようやくひとつの大きな転機を迎えることとなると感じている。 事務局にお聞きしたいのが、今後、学校規模の問題もある中で、校区の再編など、両荘地区以外にも進捗があれば、お教えいただきたい。 加古川中学校も推計上は、生徒数が減少していくものとなっているが、逆に増えているという感覚がある。北部については児童生徒数が減っていくというのは間違いないと思うが、加古川中の校区にはどんどんとマンションが建ち始めており、今後、加古川でも交通の便の良い地域については、ますます児童生徒数は増えていくのではないか、ということが現場にいながら感じているところである。

（事務局）	昨年から、両荘地区の次の地区という形で、志方地区と東神吉地区でオープンミーティングを開催している。オープンミーティング開催後も、地域や保護者の方からも追加で勉強会をしたいというようなお声もいただいているところである。その都度、教育委員会からも参加させていただいており、今後、どういう風な形が子どもたちにとって良いのかということについて、両荘地区のような小中一貫校を目指すのか、それとも規模は現状のまま、魅力を高めていくような選択が良いのか、というようなことを議論している。 両荘地区についても同様であるが、加古川市の教育委員会の方針として、まずは地域の方や保護者の方の想いをお聞きし、その想いがしっかりと反映されたものをベースとして、話を進めていくこととしている。したがって、教育委員会が一方的に方針を決めるような進め方ではないため、地域の方や保護者の方の想いをしっかりと反映させながらひとつひとつ進めている、というのが現状である。
（委員）	本日このような会に初めて参加したが、加古川市の校長先生をはじめとして委員の方々と共にこの時間を過ごす中で、新しい学びがあった。大学では、幼稚園教諭・保育士を養成しているので、「子どもの育ち」ということに関して、長年、身近に感じているところである。子どもの育ちは現実と理想のはざまであり、財源も限られた中で行わないといけないので、何が答えかということを日々模索しながら仕事に携わっている。 しかしながら、子どもたちが減っていく現状がある中で、難しい課題等があるからこそ、見えてくるものや新しい取り組みが生まれることがあると感じる。ここまで来られたことには大変なご苦労もあったと思うが、委員として何かできることがあれば尽力したい。
（委員）	両荘中学校には毎週行っており、そのあと上荘小と平荘小にも行っているが、通うたびに両荘中の校舎が変わっていく姿を目の当たりにしている。また、小学校を閉め、中学校と一緒になるということも目の当たりにし、その経験もさせていただいているところである。人数が減少している学校、人数が増加している学校、どちらもそれぞれのやり方があり、それぞれの良い特色があると思う。それぞれの学校が持つ特色や強みなどをもっともっと表に出していけると良いと思う。 私自身、学校に来にくい生徒たちと関わっている仕事をしている。また、未就学児のお母さんとも関わっているところである。そのため、今後さらに、加古川市に魅力を感じてもらえるよう、また学校に希望

	を持ってもらえるように、私も努めていきたいと思う。
（委員）	今年初めて参加させていただく。 今日も初めてわかったことが多々あった。普段こういうことに関わらなければ、聞いたことのないことが多々あったので、もっとそういうことが伝わってくれば意識も変わってくると思うし、保護者にも現状を認識してもらえるのではと思う。私自身、生まれも育ちも加古川なのでやはり加古川で暮らしたいと思い、明石から加古川に帰ってきた。日岡山の近くに住んでいるので、子育てする間はいいなと思っていたが、日岡も変わっていく中で、明石から帰ってきた頃と比べると、少し子どもが育てにくいと感じている。公園などの中で子どもたちを遊ばせたい・育てたいという想いがある中で、育てにくい部分もあるということは事実なので、子どもたちが遊べるところを増やすなど、今後、良くなっていけるところであると思うので、そうすれば子どもたちも増えていってくれるのではないかと思う。 校区の話についてだが、校区割について初めて詳細を知った。 同じ小学校の中でも中学校が二分される。一軒向こうに行くと校区が違うなどの現状があり、暗い時間帯に一人で帰ってこないといけないなどの不便さも生じているため、そのあたりはもう少し柔軟に学校を選べたら良いのにと感じたところである。 また、中学校も生徒数が減少している中、どうやって学校運営をしていこうかということについて校長先生の話を聞く機会もある。運動会についても１年生が２クラスしかなく、今までなら最低でも３クラスあったため３チーム出来ていたものの、２クラスになるとやはり子どもたちも見応えが少なくなってしまう。そんな中で、校長先生も２クラスをどういう風に４つに割ろうか等、様々な考えを持っておられた。今後も、再編を含めて様々な形で考えていただけたら、地域の活性化にもつながると思う。
（会長）	教育委員会においても、細かな規定に基づいて、柔軟に自由度の高い対応をしていただいていると思うが、ある程度の決まりも必要だと思う。校区についても様々な課題があると思うが、その中で何が子どもたちにとって就学先として望ましいのか、といったことをこのような場で議論しながら、教育委員会の方でも進めていっていただきたい。
閉会	